

単元名 てがみを かこう

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れることができる。
 (2) 内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫して手紙を書き、文章を読み返して正しくすることができる。
 (3) 書いた文章を見直して、身近な人に手紙を書こうとする。

標準的な展開例

01010219_001

【教材名】 てがみで しらせよう (下 P. 66～P. 67)

【準備等】 知多の友

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学習の見通しをもつ。 ★うれしかったことや楽しかったことを手紙に書いて伝えよう。 ○手紙を書いたり、もらったりした経験を発表し合う。 ○教科書 (P. 66) 「たかしおじさんへの手紙」を読み、気付いたことを発表する。 ○学習の進め方を確認する。</p> <p>2～3 誰に、どんなことを知らせたいか考える。 ★手紙の相手と内容を考えよう。 ○うれしかったことや楽しかったことを考える。 ○知多の友 (P. 39) に、手紙を出したい相手と伝えたい内容を書き出す。 ○グループで読み合い、手紙の相手と内容についてアドバイスし合う。 ○どんな手紙にするか決める。</p> <p>4～5 題材を選び、出来事や自分の気持ちが伝わるように手紙を書く。 ★伝えたいことを分かりやすく手紙に書こう。 ○教科書 (P. 67) 「さかもとせんせいへの手紙」を読み、手紙の書き方について知る。 ○知多の友 (P. 41～43) に手紙を書く。</p> <p>○書いた文章を読み返し、正しく書けたか確かめたり、直したりする。</p> <p>6 友達と読み合って、よいところを伝え合う。 ★手紙を読み合って、よいところを伝え合おう。 ○書いた手紙をグループの友達と読み合う。 ○手紙を読んでよかったところを伝え合う。</p> <p>○教科書 (P. 67) 「たいせつ」にあることがしっかりと書くことができたかを確認め、学習の振り返りをする。</p>	<p>・本単元は、「知多の友」に掲載されているので、十分に活用したい。</p> <p>・児童が書いた手紙や、教師の手紙を例文として挙げてよい。</p> <p>・敬体で書かれていることを押さえる。 【評】敬体で書かれた手紙を読んで考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・知多の友 (P. 38) を活用する。 ・知多の友 (P. 39) を活用する。</p> <p>【評】最近の出来事から手紙で伝えたいことを考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>【評】手紙を書く活動を通して、書いた文章を見直ししながら、手紙を書こうとする「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・知多の友 (P. 41～43) を活用する。 ・書けた児童には読み直しをさせる。間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりして、読み手に分かりやすい文になっているか確認させる。 【評】手紙を書く活動を通して、語と語や文と文との続き方に注意しながら内容のまとまりが分かるように書く「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・知多の友 (P. 45) を活用し、読み返す際の観点を示す。 【評】書いた文章を読み返す活動を通して、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりする「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】手紙を読み合い、よいところを伝え合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】